

助産師教育における将来ビジョン 2021

～持続可能な助産師教育の実現に向けて～

公益社団法人全国助産師教育協議会（以下、全助協）は、すべての女性、母子と家族が助産師のケアを享受できるように必要な専門職人材として、有能な助産師の育成を推進することを目指しています。2020年6月に「望ましい助産師教育のコア・カリキュラム 2020年版」が総会にて承認され、現在はその実装に向けた取り組みを開始しています。

全助協は、2015年に質および量ともに十全な助産師育成を目指して、「助産師教育における将来ビジョン 2015」を策定しました。

2019年度に実施した「助産師教育における将来ビジョン 2015」の評価に基づき、新たに「助産師教育における将来ビジョン 2021」を策定しました。

【ビジョン 1】 助産師学生の実習前／卒業前の能力を担保する

- 会員校の助産師学生を対象とした実習前／卒業前の助産師教育共用試験(CBT :

Computer Based Testing / OSCE : Objective Structured Clinical Examination ; 客観的臨床能力試験)の導入を図り、学生の能力を保証するシステムを開発する。

(説明)

専門職教育における共用試験に関しては、医学・歯学・薬学・獣医学教育で、すでに実習前の学生の能力保証として全国規模で共用試験 (CBT と OSCE) を実施し、専門職としての

資格を有しない実習生の質的保証を行っている。加えて医学教育では、2020年から上記の実習前に加え、6年次の卒業前に Post-CC OSCE（Post-Clinical Clerkship OSCE、実習後 OSCE）が実施されている。

助産師教育においても専門職教育を行う責任として、どの助産師教育機関であろうと、助産学実習前に母子の安全が守られ、妊産婦や家族、あるいは臨床側から信頼が得られるように、助産師学生が一定の基礎的能力を有していることを保証する必要がある。また卒業前には、助産師学生を社会に送り出す助産師教育機関の使命として、助産師として求められる最低限の能力を保証すべきである。

【ビジョン2】助産学担当教員の教育力の向上／保証、および臨地実習指導者の指導力の向上を図る

- 助産学担当教員および臨地実習指導者を対象とし、「望ましい助産師教育 2020年版」を実行するために求められる教育研修を、助産師教育研修研究センターにおいて体系的に展開する。
- 全国助産師教育協議会が作成した「助産師教員キャリアラダー」に基づき、助産学担当教員の教育力を保証するためのキャリアラダー認証制度の設立を進める。

（説明）

全助協は助産師教育研修研究センターにおいて、特定分野（助産）実習指導者講習会、ファーストステージ研修、セカンドステージ研修を展開しているが、セカンドステージ研修は一部の研修内容にとどまっており、研修の体系としては未だ不十分である。

全国助産師教育協議会が作成した「望ましい助産師教育コア・カリキュラム 2020 年版」や「助産師教員キャリアラダー」を踏まえつつ、助産学担当教員が、時流に応じて社会に求められる助産師教育力を修得できるよう、体系的・系統的に研修内容を精査し、企画・運営する必要がある。さらに、運営に際しては、受講者が受講しやすい方法に配慮しながらの展開が求められる。

また、日本助産評価機構は、CLoCMiP レベルⅢに到達している助産師を「アドバンス助産師」として認証しているが、2022 年からは所属施設・役職・就業状況に関わらず更新申請を進めることに変更され、「教員」区分での申請は行われない。そこで、助産学担当教員としての教育力を、第三者が保証するシステムを構築していく必要がある。

【ビジョン 3】助産師教育の遂行や、助産学担当教員・臨地実習指導者の研修開催に対し、危機管理体制を構築する

- 自然災害や未知なる感染症等の影響により通常の助産師教育が阻害される危機的状況下においても、ICT を活用して遠隔・対面の両者が可能なハイブリッドな助産師教育環境を整備する。
- 危機的状況下等を想定し、臨地実習で修得すべき助産実践能力の修得を促進する教育方法の検討を行う。

(説明)

わが国において、自然災害や未知なる感染症の出現・拡大は、いつ・どこで起こるかわからないが、いつ・どこで起こっても不思議ではない。助産師教育の危機管理として、危機的

状況の発生を想定し、会員校が活用可能な教材の作成や助産師教育研修研究センターでのオンライン研修などの体制を、引き続き整える必要がある。

また、危機的状況下等においても臨地実習で修得すべき助産実践能力について、効果的に修得を促進する教育方法の開発・検証が求められている。

【ビジョン4】すべての教育課程において、看護基礎教育に積み上げた修業年限2年以上の助産師教育を推進する

- 「望ましい助産師教育コア・カリキュラム2020年版」を最短2年で実行する場合の、モデル案を提示する。
- 「望ましい助産師教育コア・カリキュラム2020年版」を最短2年で実行する場合の、参考となる教育実践例を提示する。

(説明)

ICM「助産師教育の世界基準(2010)」には、「看護の基礎教育修了者/医療従事者に関する教育課程の最短期間は18か月間」と示されており、全助協「助産師教育における将来ビジョン2015」評価からも、社会に求められる助産師の役割に対応するには、修業年限1年では不十分と考える会員が多いことから、看護基礎教育に積み上げた修業年限2年以上の助産師教育を推進する。

すべての教育課程で「望ましい助産師教育コア・カリキュラム2020年版」を最短2年で実行する場合の、モデルコア・カリキュラムや教育実践例を複数提示し、「望ましい助産師教育コア・カリキュラム2020年版」の実装を推進していく。